

中長期的な好パフォーマンスが期待される インドネシア債券

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

新興国債券市場が底堅い推移をみせるなか、インドネシア債券の堅調さが際立っています。同国は従来、経済や通貨の脆弱性が懸念され、投資家のリスク回避的な動きの影響を大きく受ける傾向がありましたが、近年では有望な投資先として注目を集めています。

東南アジアで最大の経済規模を誇るインドネシアでは、豊富な人口を背景とした堅調な内需や、ジョコ大統領による経済改革などから、近年は相対的に高水準で安定した経済成長を遂げています。また、かつて同国財政を圧迫した燃料補助金は2014年以降に廃止され、今ではインフラや医療、教育といった、より生産的な分野に再配分されており、道路・鉄道・港湾など、多くの大規模インフラ計画が、海外からの直接投資を引き寄せています。こうした資金流入は、同国の高い成長性や政治的な安定性を背景に拡大傾向にあり、資本収支を押し上げる役割を果たしています。さらに資源価格の上昇から貿易黒字が拡大しており、足元で経常赤字が減少するなど、ファンダメンタルズは大幅な改善を示しています。

財政面では、1997年以降、政府債務が大きく低下しており、他国と比較しても低い水準となっています。また、昨年財務相に就任した、元世界銀行専務理事のインドラワティ氏は市場の信頼も厚く、財政・経済・金融の各方面で成長の底上げをめざした改革を実行しており、質の高い経済成長が期待されています。

インドネシアでは、昨年6回の利下げが行なわれましたが、インフレ率は引き続き目標値の範囲内で推移しており、中央銀行は当面政策金利を据え置くものとみられます。また、潤沢な外貨準備やファンダメンタルズの改善を背景に、通貨ルピアの信認も向上しています。新興国債券市場は今後、米国の金融引締めの影響などを受け、短期的に変動性が高まる可能性はあるものの、インドネシア債券は高水準の利回りが下支えになるとみられるうえ、主要格付会社による投資適格級への格上げも見込まれており、中長期的な好パフォーマンスが期待されます。

現地通貨建て債券のパフォーマンス推移

(2015年12月末～2017年4月末)



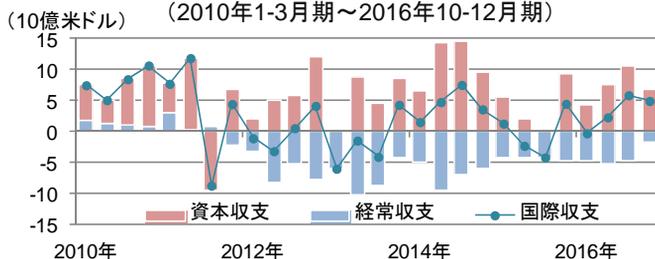
インドネシアの信用格付 (2017年4月末時点)

S&P	ムーディーズ	フィッチ
BB+	Baa3	BBB-

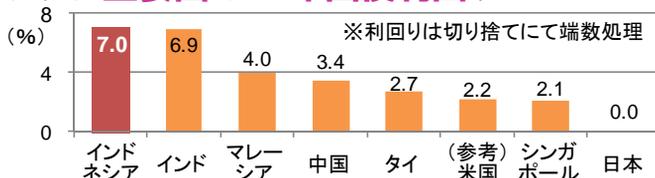
※ 自国通貨建て長期債務に対して付与されたもの

インドネシアの国際収支の推移

(2010年1-3月期～2016年10-12月期)



アジア主要国の10年国債利回り (2017年4月末時点)



【債券指数】インドネシア: Markit iBoxx ALBI Indonesia (現地通貨ベースを日興アセットマネジメントが米ドル換算)、アジア: Markit iBoxx ALBI (米ドルベース)、新興国: Markit iBoxx Global Emerging Market Local Currency Bond Index (米ドルベース)、全てトータルリターン (信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。